特集
「まちの未来をつくる」地域版未来会議を開催

本年度の地域版未来会議は、6月28日の鷹島地域を皮切りに7月14日までに市内8地域において開催しました。

昨年度の地域版未来会議で出された、それぞれの地域が抱える問題や解決すべき課題の中からテーマを選定し、各地域の住民の皆さんをはじめ、高校生や大学生なども参加し、話し合いが進められました。

特集では、今回の地域版未来会議で出た意見の一部を紹介します。すべてを紹介することはできませんが、それぞれの地域でどういった意見が出たのか市民の皆さんと共有したいと思います。

なぜ未来会議を開催するの？

市は、令和2年3月に、10年後の松浦市のあるべき姿と進むべき方向についての基本的な指針となる松浦市総合計画を策定しました。

計画では、まちの将来像の1つに「皆がつながりチャレンジするまち」を掲げており、「小学校区を対象とした協働によるまちづくりを目指す」としています。そのためには、対話によるまちづくりが進むための、人づくり、環境づくりを行うことが大切です。その具現化に向けて地域ごとに異なるさまざまな課題を市民の自由な発想と企画立案により解決できる仕組みづくりを目指すとともに、幅広い市民の声を市政に反映させるために、地域版未来会議を開催しています。

これから私たちが経験したことのない人口減少社会を迎えようとする中で、地域の皆さんが豊かで、安全・安心に暮らしていける、住みたい・住み続けたいまちとしていくために、行政と地域の皆さんが役割を分担して行っていくことが重要となっています。

地域版未来会議では、地域の魅力や課題を皆さんで共有していただき、自分たちに何ができるかなどを話し合っていただきました。

市では、市民の皆さんが自分たちの地域のことをお互いに話し合っていくことで、さまざまな立場や年代の人たちが主体となって動く「協働によるまちづくり」につながると考えています。

【鷹島地域】6月28日

○テーマ「鷹島の資源を活かして、若い人がUターンするためには？」

○何が問題なのか？

・Uターンするには住む場所や働く場所が必要。

・空家があるが貸したがらない。

・鷹島の資源である元寇やモンゴル村を活用する。

○どうすればいいか？何ができるか？

・鷹島小学校跡地を子育て世帯向けの宅地にする。第1次産業の多角経営やIT企業を誘致して働く場所を確保する。

・有期契約で賃貸し、そのお金をリフォーム代に充てるなど、空家を利用して定住につなげる。

・週末には道の駅にキャンピングカーが来ている。キャンプブームなので、モンゴル村を活用し、車でソロキャンプに来てもらい、星空などを堪能してもらう。

・モンゴル村の建物の利用（IT企業の誘致など）や道の駅モンゴル村として利用する。

・元寇を活かした研究所（大学の考古学のサテライトキャンパスなど）の誘致や博物館の建設。

▶鷹島地域での発表の様子

【福島地域】6月29日

○テーマ「地域の足を自分事として考えてみよう！」

○何が問題なのか？

・高齢者は、病院の送迎、介護サービスの送迎、移動販売が利用できるので定期バスに乗らない。

・子どもの通学以外はバス利用者が少ない。

・Aコープがなくなり買い物は市外が多い。また、高校生の通学で島外へのバスの便数が少ないなど、福島に住むには車が必須。

・車を持っていない人、免許がない人（免許返納者も含む）の買い物や通院にはバスが必要。

○どうすればいいか？何ができるか？

・日頃のお付き合いの延長で、自家用車で乗り合わせや助け合う。

・企業（ストアー、コンビニなど）と協議し、移動販売を行う。

・乗り合いバスが走らない昼間に助け合いバスを運行する。有志によるNPO法人立上げやタクシー会社で運営する。

・デマンドタクシーを検討する。福島の商工会、NPO法人、町内のタクシー、西肥バスなどに相談できないか。

▶福島地域での発表の様子

【調川地域】7月5日

○テーマ「①世代を超えて繋がり、支え合うためには？」「②地域の足を自分事として考えてみよう！」

○何が問題なのか？

①・世代を超えて集まる機会、人との交流が減った。移住者や外国人技能実習生と知り合う機会がない。
・年を取って動くのがつらくなり、意欲が減退している。

②・町内に買い物をする所が少ない。買い物に行けない人がいる。
・西肥バス、乗り合いバスが便数が少ないなど不便。
・高齢者の免許返納のタイミング。

○どうすればいいか？何ができるか？

①・身近な事の助け合い（ごみ出しや食事を運ぶような仕組み）。
・色んな世代が交流するイベント、町民運動会などをする。小中学校の運動会と一緒にやっても良い。

②・ボランティアや地域でお金を出し合って買い物、通院限定の乗り合いバスを運行する。
・移動販売車の活用。
・コミュニティバスの便数を増やす。
・ふるさと納税や住民の出資で会社を作るなど、ローカルコミュニティ（地域内）の乗り合い制度を作る。

▶調川地域（右）、今福地域（左）でのワークショップ

【今福地域】7月6日

○テーマ「①世代を超えて繋がり、支え合うためには？」「②地域の足を自分事として考えてみよう！」

○何が問題なのか？

①・地域に自由に集える場所がない。
・若者と高齢者、高齢者同士の交流する場所がない。全世代の交流が希薄になってきている。
・孤立している。鬱々している人が増えているのではないか。
・子どもたちの放課後の受け皿。

②・バスの便数が少ない。バリアフリーになっていない。乗り場まで遠い。
・自家用車中心の移動となるため、免許返納できない。

○どうすればいいか？何ができるか？

①・いずれは子どもも来れるような高齢者の集いの場を作る。
・「気持ちを楽に」「気軽に集える」チーム『喜楽（きらく）』を結成する。おいしいコーヒーなどが飲めて、小中学生と交流ができ、互いに特技を教え合える場、体操器具が使える場。

②・移動の協力をしてくれる家族などを呼び戻す。
・利用者を増やす策を練る。
・通院、通学の移動の補助や対象者を絞って新しい交通手段を作る。

参加者にインタビュー

長崎県立大学２年　田中　美江さん（今福町出身）

大学の先生から誘われ、地元の取り組みに興味を持ち、今福と志佐の地域版未来会議に出席しました。参加してみると、まちを良くしたいという気持ちが皆一緒で、「楽しかった」という感想が真っ先に思い浮かびます。

生活の中で、自分のまちについてじっくり考える機会はありません。しかし、未来会議に参加し、多くの人と対話することで、自分の意見や考えがまとまりました。未来会議のような場がもっと増えて若い世代が参加することでより多様な意見を出し合うことができます。今後も若者の意見に耳を傾けてほしいです。

【星鹿地域】7月8日

○テーマ「①世代を超えて繋がり、支え合い、地域を盛り上げるためには？」「②地域の足を自分事として考えてみよう！」

○何が問題なのか？

①・イベントが減ってきたため、顔を合わせたり、コミュニケーションをとったりする事が無くなってきた。

②・バスの便数が少ないなどで利用が少ない。バス停が遠い。

・車が無いと生活できないので免許返納できない。

○どうすればいいか？何ができるか？

①・地区内の田んぼで星鹿小学校の児童が田植えや稲刈りをやっている。同じ田んぼを借りて、春に保育園で泥んこ遊び、星鹿小学校の児童が田植え、秋には収穫をし、町民も一緒に餅つき大会をして、婦人会で作ったぜんざいに入れるなど、皆で食べる。

・イベントに合わせて地区対抗の仮装大会、ビーチフラッグをやる。

②・地域での乗り合わせや予約制の乗り合いタクシーなどの導入。

・乗り捨てシニアカー、少人数用の地域内循環バスの導入。

▶星鹿地域の様子（右）と市民ファシリテーターが描いた進行用ホワイトボード（左）

【上志佐地域】7月9日

○テーマ「①上志佐小学校を地域のコミュニティの場として地域を活性化する」「②地域の足を自分事として考えてみよう！」

○何が問題なのか？

①・人口減少の中で核となる上志佐小学校の存続。学校と地域との交流が少なくなってきている。

②・通学、通院、買い物など、必要な時間に合った交通手段がない。

・車を利用する生活習慣から抜けられない。

○どうすればいいか？何ができるか？

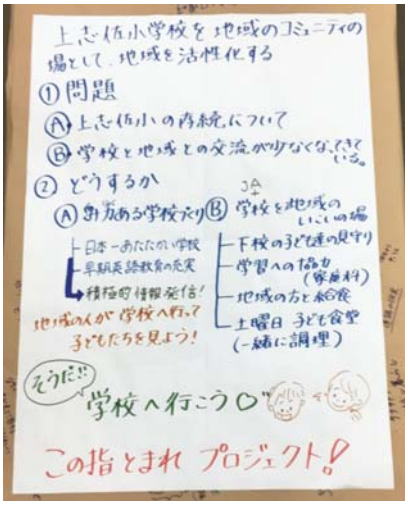
①・全国から子どもが集まるような日本一温かい学校、英語教育の充実などの魅力ある学校づくり。

・登下校時の見守りだけでなく、家庭科などの手伝いや地域の方と一緒に給食を食べるなど学校を地域の憩いの場にする『そうだ！学校へいこう「この指とまれプロジェクト」（仮称）』をやる。

・農協をお借りして、地元の食材で子ども食堂的なものをする。

②・地域で予約制などのコミュニティバスを走らせる。

・ちょっとしたお手伝いなどをする地域のお助け隊を育成する。



▶上志佐地域の様子（右）とテーブルでまとめられた意見の一つ（左）

【志佐地域】7月13日

○テーマ「①災害時に自分の身をどうやって守るか？」「②地域の足を自分事として考えてみよう！」

○何が問題なのか？

①・ハザードマップが一般的に知られていない。
・災害に対する意識が低い。具体的なイメージが出来ていない。
・自力で避難できない人が増えていく。

②・公共交通機関の利用者の減少。
・全員が満足する交通手段の確保は難しい。まずはコミュニティづくり。
・免許返納者が少ない。

○どうすればいいか？何ができるか？

①・ハザードマップの日を作り、その日に各家庭で確認したり、学校の防災学習や防災訓練の時に勉強する。
・災害時のシミュレーション映像を作って、自分たちで可視化する。
・スーパーに防災コーナーを作って、買い物をすることで特典がもらえたりする。
・住民参加型の防災訓練をする。

②・移動スーパーや通院・買い物時の乗り合わせなど、免許返納しやすいシステムづくり。
・地域通貨を作り、乗り合いタクシーで利用できるようにする。

▶志佐地域で発表する松高生の様子（右）と御厨地域の様子（左）

【御厨地域】7月14日

○テーマ「①松浦港（御厨地区）埋立地の活用について」「②地域の足を自分事として考えてみよう！」

○何が問題なのか？

①・子どもたちの遊ぶ場が少ない。
・利用制限が多い。トイレが少ない。
・活用スペースが限られている。

②・免許返納後の足の確保。
・他人を乗せると事故などが心配。
・ボランティアでは限界がある。

○どうすればいいか？何ができるか？

①・芝生広場におけるテントの使用や車の出入りなど、利用制限の一覧表を作る。
・散歩やランニングコース（距離の表示など）の設置。
・夏祭り、花火、蛇踊り、朝市、カラオケ大会、野外シネマ、ダンス大会などのイベントを行う。

②・ご近所同士の助け合い・相乗りのマッチングシステムの構築。
・シニアカーで動ける範囲で、買い物、医療など、必要な人や物を集め「コンパクトシティー」を作る。
・電子マネーを使えるようにし、必要なインストラクターを雇用する。
・小学校区ごとに集える拠点を作る。顔見知りとの交流で認知症防止。
・自動運転システムの導入。

参加者にインタビュー

松浦高校普通科２年　渡邊　璃乃さん（志佐・馬場）

学校に掲示してあったポスターを見て、志佐の地域版未来会議に参加しました。年上の人たちが多い中、不安でしたが温かく受け入れてもらいました。

対話の中では、議題に対する意見が大人の人たちと異なり、物事を考える難しさや着眼点の違いに気付くことができました。また、私たち高校生でも１つテーマを決めて話し合うことで、自分なりの意見、結論を出すことができます。

自分たちのまちに目を向けて興味を持ち、未来会議のような場に参加する同世代の高校生が増えてくれると嬉しいです。

地域版未来会議後の動き

○今福地域

今福地域においては、未来会議で提案された取り組みを実現するために、未来会議に参加した人たちの中から有志を中心として、これからの取り組みについて話し合いを進めることとなっています。

参加された人たちには、地域で自由に、誰もが集える場があったらいいなという思いがありましたが、今回の地域版未来会議で参加者の意見を聞いたことで、より具体的な話し合いができるようになりました。

今福地域で世代を超えた交流の場を作っていくために、園児や小中学生も含めた三世代交流や、独り住まいの人、外出の機会が少ない人などもお誘いし、気軽に楽しく集まれる場所を作っていこうという話になっています。

新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着いたら、他地域の集いの場を見学することや実現に向けた具体的な内容について話し合いを行うことが計画されています。

○上志佐地域

上志佐地域においては、上志佐小学校のコミュニティスクールや学校支援会議での意見をもとに、地域版未来会議の中で、8月下旬に地域住民やPTA、学校などが協働して、学校周辺の草刈り作業を行うこととなり、学校などを通じて呼びかけられました。しかし今回は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、実施には至りませんでした。

この取り組みをはじめ、上志佐小学校では、すでに地域の人たちが学校に出向いて、昔遊びや田ノ平浮立の踊りを教えるなど、小学校の地域学習だけでなく、小学校存続のための魅力向上や、学校の活動に関わることをきっかけに、地域が一体となる取り組みが進められています。

市民ファシリテーターにインタビュー

青の未来をかたるカフェ代表　髙田　さおりさん（志佐・向町上）

今回は市民＊ファシリテーターとして、各地域の未来会議で話の促進役を務めました。会議を進める中で、参加者の皆さんのまちに対する愛情を感じ取ることができました。また、今回は大学生や高校生の参加者が多く、学生本人が地域の課題について考えるきっかけとなり、大人の皆さんにも刺激を与えてくれました。

未来会議のように住民同士が対話する機会があることで、新たなアイデアや人の繋がりが増えていきます。このような機会を増やし、継続して行うことが大切であり、結果的によりよいまちづくりに繋がると感じています。

これからのまちづくり

今回の未来会議では、市民ファシリテーターの「青の未来をかたるカフェ」の皆さんに会議の進行を務めていただきました。

メンバーの皆さんにとって、初めての実践だったため、最初は緊張される一面も見受けられましたが、回を重ねるにつれて堂々たる話しぶりで、会議を運営していただきました。

どの地域でも「対話」が促進され、班によっては、今すぐにでも実行できるような具体的な提案が出されていました。

今回の特集では、各地域で出された意見を市民皆様と共有するため、主な意見を抜粋して掲載しています。

市では引き続き、小学校区ごとの地域運営組織の立ち上げに向けて、地域での話し合いや取り組みを支援していきます。

問 政策企画課企画統計係　☎内線315

＊ファシリテーター…話を円滑に進める進行役